

田富小だより

2022年新春の表彰

令和3年度
第10号
1月28日
田富小学校



(ちょっと時期が遅くなりましたが) 新年明けましておめでとうございます。早いもので、令和の年号になって3度目の新春がやってきました。旧年中は、田富小学校教育にご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございました。本年度も変わらず、どうぞよろしくお願い致します。

さて、去る1月4日(火)、仕事始めの日ですが、山梨県防災新館において、「令和3年度山梨県学校給食大会」が開催され、「学校給食優良学校」賞を受賞して参りました。右の写真がその時の賞状と楯です。これは、学校給食をはじめ、

優れた食教育をすすめた学校に贈られるものです。昨年度本校では、校内研究会の中でも食教育に取り組み、食に関する教育内容を体系的にまとめ、一年間を通して、様々な教科や特別活動の中で学ぶシステムを作り、実践してきました。その結果、児童一人一人が、自分が口にする物に対して積極的に関わり、様々な事柄を学びながら、これからの生活の中で必要不可欠になる内容を自主的に学ぶことができました。昨年、市広報でも取り上げられましたが、地元の食材を使った栄養価のあるメニューを考えたり、授業実践を公開したりする中で他の学校にも種々の提言ができたと考えています。毎日の給食時間の初めには、給食委員会による当日の献立についての栄養素クイズがあったり、読書活動の推進とも関係づけた「お話給食」、児童一人一人が自分の力量にあった形で食づくりに取り組む「手作り弁当の日」などもあったり、今年度も、昨年度までの研究成果を継続しつつ、伝統的な活動にも取り組んでいるところです。子ども達の多くは、スマホやタブレットなどの情報端末を利用した情報取得が当たり前になっている時代です。映像や画像、音声によって伝えられるものに頼る部分が大変増えてきている現状ですから、便利である反面、実物を通して実感できる機会が減少していることも事実です。自らの生命を維持し、健康的で楽しい文化としての食事という大切な事柄については、実際に目で見て、香りや味覚を確認しながら接したいものです。また、体の健康を左右する部分もあります。これからの人生の中で、自分のみならず、次世代へ伝えるべき大切なものを今後も大事にしていきたいと思う次第です。

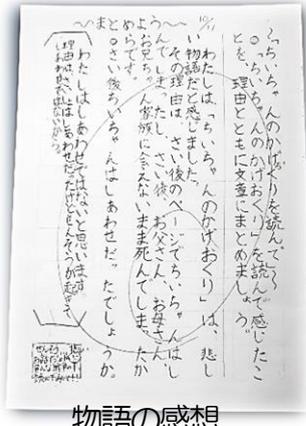


家庭学習の効果

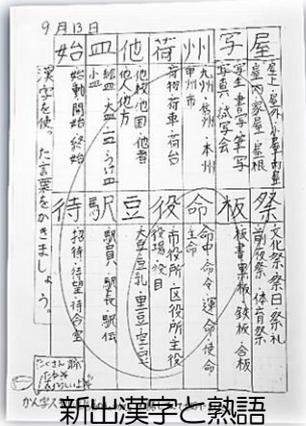
2学期の終業式の折、学年代表で挨拶してくれた児童が次のような内容を話していました。

『日々の学習の中で、これまでは、十分な理解が得られていなかったところがあったので、家庭学習に力を入れ、より積極的に取り組んでみようと思い、実践してみたら、学習内容の理解も十分にでき、テストの点もあがった』…と。自らの学力を分析し、足りないところを補う計画を立て、実践してみて、その成果を知る。まったく素晴らしい発表でありました。こういった成功体験を全校の前で発表してくれたことによって、何人かの児童は「自分もやってみよう」とか、「なるほど、もう少し頑張ってみようか」とか思ってくれたのではないかと考えます。1月24日時点で、全校児童が提出した自学ノート「やってみるじゃんノート」は800冊を超え、昨年度の提出数とほぼ並びました。全校児童がおよそ350人ですので、単純計算をすると一人当たり2,3冊提出したことになります(余談ですが、これまでで最も多くのノートを提出しているのは、なんと1年生で、冊数は14冊を数えます。)。個人個人で定める学習内容はもとより、家庭学習の定着ということも大きな目的です。小学校の

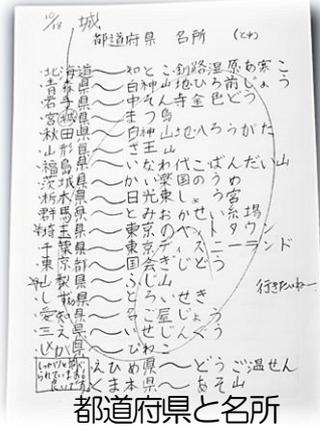
うちに家庭学習スタイルを確立できないと、中・高へ進学していった時にスムーズに家庭学習ができないという話もよく聞きます。一日何時間もするというものではありません。少しずつでいいので、継続していくことが大切です。下に、これまで提出してくれたノートの一部を載せます。都道府県名をおぼえるだけでなく、名所をいっしょに調べたり（秋田県：白神山地 八郎潟、愛媛県：道後温泉 など）、教科書の物語を読んで、感じたことをまとめてみたり、新出漢字を使った熟語を調べたり（屋：屋上、屋内、肉屋、家屋など）、様々な工夫をしています。これからも子ども達の自主的な学習活動を推進していきたいと考えています。



物語の感想



新出漢字と熟語



都道府県と名所



新たな変異株と学校生活

令和4年になってから、新種の変異株「オミクロン株」の感染が急拡大し、連日、新規感染者数の記録を更新している状況です。兎に角、これまでのデルタ株よりも数倍感染力が高いというだけあり、あちこちで感染が広がっています。こうした中、1月23日、長崎知事は、「新型コロナウイルス感染拡大防止への臨時特別協力要請」を各所に出しました。小学校においては、分散登校、分割授業、オンラインによる授業、職員室の密状態の解消…などがあげられていました。本校もこの要請に従い、次のような教育活動を実施していく方向です。

- ①比較的人数の多い学年を対象とした分割授業
- ②学校で他の児童と共にいる時間を短縮する時短措置
- ③休み時間など大勢の子ども達が多く集まる時間を作らない、時差式取組の実施
- ④その他児童が一つの空間に多くいる状況を作らないための措置

さて、国立感染症研究所の発表によると、オミクロン株の感染経路には、エアロゾル感染を否定できない状況もあるということです。つい先日大寒を迎え、寒さが最も厳しい時期ですが、教室の換気には十分気を使い、締め切りにならないよう「常時換気」で授業を行っております。他にも、寒さで手洗いが十分でない状況もあるので、アルコールによる手指消毒の徹底、これまで行ってきた歯磨きの当面の中止、同じく、トイレ掃除の当面の中止、リスクの高い教育活動の一時停止（歌唱や鍵盤ハーモニカ・リコーダーによる器楽演奏、調理実習、各教科において児童同士が近距離で密になる教育活動（近い距離での話し合い活動や実験・観察）、呼気が激しくなる運動の中止…など）も行っていきます。全国的にみると、小中学校や保育施設等でのクラスター報告もされていますので、本校を含め、中央市においても安堵していただける状況ではありません。今度の波は、いままでのものをはるかに超える大きな波です。重症化リスクが低いようだとはいわれても、今後どのような展開をみせるかわかりません。十分に用心しながら、この第6番目の大きな波を安全にこえていきたいと思えます。保護者の皆様、地域の皆様、引き続き田富小教育活動へのご協力・ご理解をよろしくお願いいたします。

